

SEEDS



SHIRETOKO NATURE FOUNDATION

No.218
2013 / 春号

しれとこの愛

自然特集

活動レポート
シホテ・アリンと交流事業を
進めています

知床・人・インタビュー 第15回
初代事務局長 大瀬 昇さん
スタッフの本棚 第8回
イノック・アーデン
知床財団 購買部 第4回
新・知床財団オリジナル Tシャツ
スタッフは見た! 第5回
クロテンの足跡が問う私の道徳観

■写真 羅臼のミネザクラ



歓迎会の様子。右端がシホテ・アリン自然保護区のアスタフィエフ所長。



写真：(右) ゲストハウスから見たテルネイの町。(左上) ゲストハウスの外観。別名トローハウス。

(左下) 非常に快適だったゲストハウスの部屋。室内は壁にかかった絵も布団もすべてトロ、トロ、トロ！

行つきました
交流事業のひとつとして
2012年9月にアサヒビール株
式会社からのご寄付を受け、この
自然保護区を束ねるアナトリー・
アスタフィエフ所長を知床にお招
きし、知床博物館と共に知床とシ
ホテ・アリンの今後の交流につい
て協議したほか、知床世界遺産セ
ンターにおいて講演会も開催しま
した。

そして、2013年2月13日、
今度は知床カラシホテ・アリンを
訪ねてきました。地図上で見ると
距離的にとても近いシホテ・アリ
ンですが、地図上では見えない
間の冬道ロングドライブ。2泊3

ン自然保護区、真っ直ぐ飛んでい
ければ近いのですが……ところが
どうこい、そうはいきませんでし
た。

ロシア沿海州地方の拠点都市、
ウラジオストクから自然保護区の
事務所があるテルネイという町ま
ではなくと片道約700キロ！毎
月月曜日に定期便のヘリコプター
が飛んでいるものの、地元の人も
含めて陸路での移動が一般的で
す。長距離バスも走っています
が、今回は保護区から迎えに来
ていただきました。途中、食事や
トイレ休憩の時間も入れて約13時

日の旅程でしたが、1日目と3日
目は移動のみで現地滞在は正味1
日だけの弾丸ツアー。シホテ・ア
リンは思った以上に遠かったで
す。

朝ウラジオストクを出発して現
地に到着したのは22時頃。シホテ・
アリンの皆さんは、夜遅くともか
わらず、心のこもった手料理と
ウォッカを用意して出迎えてくれ
ました。



シホテ・アリンと交流事業を進めています

文 - 増田 泰 事務局長

なぜシホテ・アリン?

シホテ・アリン自然保護区の名
前は知らなくても、黒澤明監督が
映画化した探検小説「テルヌ・ウ
ザーラ」なら存じの方も多いの
ではないでしょうか？この小説の
舞台となつたのがロシア連邦東
部、沿海州地方に広がるシホテ・
アリン自然保護区です。広さ約40
万ヘクタール（知床国立公園の約
7倍）で、アムールトラや知床
モオナジミのヒグマやシカがいる
一方、日本では絶滅してしまった
カワウソやオオカミも生息し、鳥
類約350種、植物約2000種、
哺乳類72種など、多くの生き物の
貴重な生息地になっています。

この自然保護区は知床から最も
近い海外の世界自然遺産でもあり
ます。また、ヒグマやシマフクロ
ウが生息するなど知床との共通点
も多く、両者が交流の場を持つこ
とで、生物の進化の歴史の解明や
絶滅危惧種の保全に向けた新たな
取り組みが始まることが期待され
ています。

そして今、知床財団は知床博物
館などと共に、シホテ・アリン
との交流事業を進めています。

増田泰 事務局長

知床財団をひっぱる事務局長。デ
スクワークよりも現場に出ている方
が性に合っているようで、常に事務
所の無線に耳を傾けている。



増田がみた シホテ・アリン自然保護区

密猟を監視する詰所を訪問。道路を見下ろす小高い丘に物見櫓のようなものがあり、そこから夜間道路を往来する不審な車がないか監視します。密猟者は夜間に道路を横切るシカやイノシシなどを銃で狙うのだそうです。詰所では入林許可書の発行もしており、保護区内の氷結した湖面に穴を開けて釣りを楽しむため地元の人が許可をもら以にきていました。



シホーテ・アリン 自然保護区の仕事



■ 調査研究

保護区職員による調査研究は、保護区内各所に設けられた調査プロットなどでのモニタリングが中心。その他ウラジオストクなどに拠点を置き、沿海州各地の研究フィールドに「通う」研究者もいるようです。



■ 味の山

レンジャー業務のレクチャー。
レンジャーは皆さん迷彩服姿。



保全管理部

保全管理部門は密猟監視取締や森林火災の予防・消火活動、林道や橋などインフラの管理、入林許可などの許認可事務などをを行ういわゆるパークレンジャーで、中でも密猟監視が中心業務のようでした。

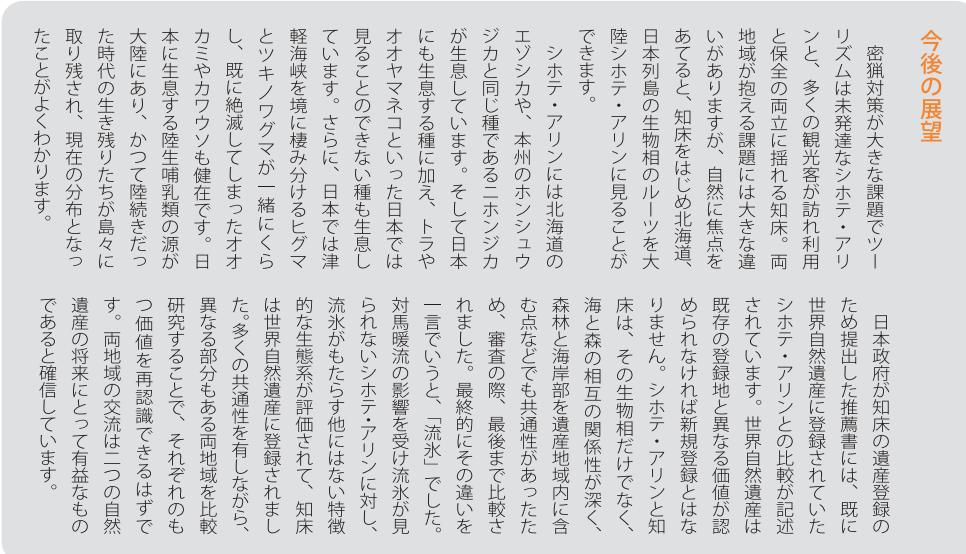


明治文庫

地元では子どもたちに向けた環境教育活動を行っています。また、地元の人たちがトラに変装して街中を歩く、トラ保護キャンペーンも行っています。



トラ保護キャンペーン



今後の展望

シホテ・アリンには北海道のエゾシカや、本州のホンシユウジカと同じ種であるニホンジカが生息しています。そして日本にも生息する種に加え、トラやオヤマネコといった日本では見ることのできない種も生息しています。さらに、日本では津軽海峡を境に棲み分けるヒグマとツキノワグマが、緒にくらし、既に絶滅してしまったオオカミやカラワウソも健在です。日本に生息する陸生哺乳類の源が大陸にあり、かつて陸続きだった時代の生き残りたちが島々に取り残され、現在の分布となつたことがよくわかります。

森林と海岸部を遺産地域内に含む点なども共通性があつたため、審査の際、最後まで比較されました。最終的にその違いを一言でいうと、「流水」でした。対馬暖流の影響を受け流水が見られないシホテ・アリンに対し、流れ水があるからではない特徴的な生態系が評価されて、知床は世界自然遺産に登録されました。多くの共通性を有しながら、異なる部分もある両地域を比較研究することで、それぞれのもの価値を再認識できるはずです。両地域の交流は二つの自然遺産の将来にとって有益なものであると確信しています。



保護区内の森を散策。



海岸に近づくにつれて周囲のナラは背丈が低くなつた。



シホテ・アリン保護区に暮らすイノシシ

海へ続く遊歩道を歩きながら、
ラ森を見学。途中調査区がある
り、東大の研究チームとの共同
研究でナラ枯れ病で枯死した
林の回復状況をモニタリング
している調査区がありまし
た。歩いていると、いたるところ
にイノシシが雪を掘り起
こした痕や、シカによって枝
先がかじられた痕がありました。
少し先にはニホンジカの
死体もありました。所長のお話
ではオオカミに襲われたもの
のことと、砂浜には確かに
にオオカミの足跡が点々と残
されていました。



保護区を貫く幹線道路。この沿線での密猟が多い。密猟者は夜間に道路を横切るシカやイノシシなどを銃で狙うそうだ。